

一応初めての方向けに。

※PTT → ポートータイ石油公社 タイ最大エネルギー企業
NNCL → ナワナコン工業団地 工業団地経営
CK → チョーガンチャーン タイゼネコン2位

エネルギーが上がってくると今後は
鉄鋼やケミカルが面白いのではと思うのですが・・・。

そうこうしていたら SET 総合指数は900ポイントに近づいてきました。

2007年上半期のタイ政府の発表するさまざまな
数字を見てしまうと2006年より悪いのですが、8月、9月に入ってから
少しずつ改善の兆しが出てきました。

さてそれでは第23号に入ります。どうぞ宜しくお願い致します。

(こちらのメールマガジンは転送可となっています。
御友人や御知り合いでタイに関心ある方にはどんどんお伝え下さい。)

□□ No1 タイ株初心者編です ■■

タイの最近の良い経済ニュースです。

タイ証券取引所 SET 総合指数は上昇中です。

10月11日のタイ証券取引所での
SET Index は 889.06 ポイントで +13.96 ポイントの上昇。
+1.60%のUPでした。最高値で一時 891.27 ポイントまで上昇しました。

特に SET50 指数が急激に上がりました。

先週シンガポールへ行く前に買っておいたバンコク銀行(BBL)や
まだ割安そうだったエネルギー関連株を含めて
いきなり5%越えてまたあがりました。

その他にも石炭関連株バンプー(BANPU)、
その次に来るランナーリソーシーズ(LANNA)なども
上昇しています。

今後 SET50 を中心に見ていくのなら、
やはりこれから上がる可能性の高い株を狙う方が良いです。

まずは業界 1 位や時価総額の大きなところ、
そしてこのメールマガジンでだいたい覚えてしまいましょう。

□□ No2 タイ株上級者編です ■■
タイ株の上場企業詳細のコーナーを作りました。

●● 023 EGCOです。 ○○

エレクトリシティージェネレーション (EGCO) は
タイで発電企業の大手になります。ラチャブリ・エレクトリック (RATCH)
に次いで 2 番目の大きさです。

その前までは EGCOMP というコードでした。2007 年 5 月に銘柄コードを変更しています。
ですので、過去記事を見ると EGCOMP で書いている記事もあると思います。

EGCO は EGAT <Electric Generating Authority Thailand>
タイ発電会社によって分社・設立された独立発電企業で
タイ政府の発電事業計画やその部門の事業を
支援することが目的で誕生しました。

1992 年に EGAT から分離した独立発電業者 (IPP) として
発電所 12 カ所 (出力計 2414 メガワット) を運営するほか
開発中のナムトゥン 2 発電ダム (ラオス)、ゲンコイ 2 火力発電所 (タイ) に
出資しています。
主力発電所はラヨン発電所 (出力 1232 MW)、カノーム発電所 (824 MW) の 2 箇所。
アマタ・コーポレーション (AMATA) とチョンブリ県で発電事業も行っています。

バイオマスエネルギー、風力発電などの代替エネルギー分野にも
積極的に進出しています。

風力発電所の設置に向けた事業化調査に関して
日本企業の風力発電事業会社ユーラスエナジーホールディングスを含めた
3 社と覚書 (MOU) を交わしています。

バイオマスエネルギーでは、
ロイエット・グリーン社を設立し、タイ初のバイオマス発電所を建設しています。

□□ No3 タイ国内ニュース編です ■■

タイでも地震の可能性が・・・。

タイの内務省ではタイ国内の地震に関する省令を変更してバンコクとその近郊地域について地震による影響を受ける可能性のある地域として指定することになりました。これによって今後高さが15M以上の建築物には耐震設計が求められるようになります。

タイ内務省のコメントでは「スマトラ島沖の大地震の際にもバンコクでも地震が体感された。バンコク都市部はミャンマーとの国境沿いの断層からおよそ200Kmと言う近い距離にあるためにバンコク南部の地域にも地震の可能性がある。」との見解を示しました。

バンコク都・パトゥムタニ県・サムットプラカン県、サムットサコン県なども指定されました。これまではタイの北部地域10県が地震可能性地域として指定されていました。

バンコクで参加している学習会でもタイにはいくつかの断層があることが確認されたとの発表がありまして、最初は疑念だったのですが、本当に地震の可能性があるとすると、ほとんどのタイの高層建築物は危ない建物ということになります。おそらく。

建築過程を毎日のように見ているために、マッチ棒のような細い柱でどんどん高層階を建築していくのは日本人から見ると非常に危険を感じてしまいます。

タイの人のほとんどは地震と言うのを感じたことがないのであまり危機感はないようですが、タイのリスクとして感じるニュースでした。

□□ No4 追伸です ■■

株式会社ブレインワークス様の御協力で「アジア進出セミナー」で1時間ほど講演させていただきます。大阪—10月24日(水)大阪市中央区 大阪商工会議所にて13:30より。交流会もあり。東京—10月26日(金)千代田区 主婦会館にて13:30より。交流会もあり。こちら国際機関の日本アセアンセンターの方も同じく講演されます。

Issued by Toshiyuki Abe in 902/112 SVcity Tower1 Rama3Rd Yannawa Bangkok 10120
Under a 2 Research Company date, I Toshiyuki Abe wrote this overview research and comment in this report. As a result investors should be aware that the report & comment may conflict of interest that could affect the objectivity of this report.

Investor should consider this report as only a single factor in making their investment decision.

身が引き締まる思いですが、
わかりやすくタイの現状をお伝えできればと思います。
ブレインワークス社のホームページはこちら。

(大阪会場)

<http://www.bwg.co.jp/seminar/2007/asia2.html>

(東京会場)

<http://www.bwg.co.jp/seminar/2007/asia3.html>

※ちなみに今回の講演内容はタイのビジネスを中心に話します。
そのため株式銘柄の解説といった内容にはなりませんので、
御注意いただければ幸いです。

ただし、

タイの経済を大きく見る、タイで働いた経験を実際聞いてみたい方には
非常に面白い内容になると思います。

<交流会で「メルマガ見ました」と声を掛けていただいた方には
タイのお土産をこっそりプレゼントです。>

もう一つ。

ロイター通信で興味深い記事が。

富裕層マーケティングを支援するアブラハム・グループ・ホールディングス
(東京都港区)の高岡壮一郎社長は 10 日、
30—40 代の「新富裕層」を取り込むためには、
金融機関は従来の旧富裕層向け営業手法を改め、
不動産や新興国市場など特定分野における強みをアピールし、
他社との差別化を図ることが必要との認識を示した。

<ロイター通信より引用>

なるほど、こう言った層もアジア新興国を狙うのでしょうか。

最後までお読みいただきましてありがとうございました！
阿部

●注意事項です

1：こちらのメールマガジンは客観的情報の提供を目的としており、
投資等の勧誘または推奨を目的としたものではないことをご了承ください。

Issued by Toshiyuki Abe in 902/112 SVcity Tower1 Rama3Rd Yannawa Bangkok 10120

Under a 2 Research Company date, I Toshiyuki Abe wrote this overview research and comment in this report. As a result investors should be aware that the report & comment may conflict of interest that could affect the objectivity of this report.

Investor should consider this report as only a single factor in making their investment decision.

まぐまぐ→ <http://www.mag2.com/m/0000208900.htm>

Issued by Toshiyuki Abe in 902/112 SVcity Tower1 Rama3Rd Yannawa Bangkok 10120

Under a 2 Research Company date, I Toshiyuki Abe wrote this overview research and comment in this report. As a result investors should be aware that the report & comment may conflict of interest that could affect the objectivity of this report.

Investor should consider this report as only a single factor in making their investment decision.